

ポタン

学名： *Paeonia suffruticosa* Andr. 科名：ポタン科



昔から綺麗な女性を花に例えて「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と言いますが、これらの植物は美しいだけでなく、古くから生薬として利用されてきました。

ポタンは中国原産の落葉性低木で、平安時代の頃に日本に渡来し、観賞用、薬用として広く栽培されてきました。花の豪華さから中国では「花王」「百花の王」と呼ばれ、清の時代（17〜20世紀）には、国花として珍重されていました。

冒頭に女性を「座れば牡丹」と例えていましたが、ポタンは、座りこんでしまうような下腹部の痛みや腫れなどの症状を改善してくれる生薬になります。生薬名を「牡丹皮（ポタンビ）」といい、薬用部位は根皮です。牡丹皮は日本薬局方に収載されている生薬で、有効成分「ペオノール」は、鎮痛、鎮痙、解熱、抗炎症、止血、抗菌作用など様々な作用を示します。また、血液が滞って巡らない状態を改善する駆瘀血（くおけつ）作用があり、女性の悩みである生理痛や生理不順、更年期障害などを改善します。

生薬名 牡丹皮（ポタンビ）[異方生薬]

薬用部位 根皮

薬効 鎮痛、鎮痙、解熱、抗炎症、止血、抗菌、止血、駆瘀血作用など

用途 虫垂炎などの化膿性疾患治療薬や婦人薬として用いられる
温経湯（ウンケイトウ）、加味逍遙散（カミショウヨウサン）、
桂枝茯苓丸（ケイシブクリョウガン）、大黃牡丹皮湯（ダイオウポタンビトウ）など

ハナウド

学名: *Heracleum nipponicum* Kitag. 科名: セリ科



蝶のような形をした、白く可愛らしいこの花は、ハナウドという植物です。関東以西、四国、九州の山野に自生する多年草で、5〜6月にかけて花を咲かせます。名前の由来は、全体がウコギ科のウドに似ていて、それよりも大きく白い、美しい花をつけることからとされ、ウドとは全く異なる植物です。岡山県を中心とするごく一部の地域では春に地面から出てきた若芽を摘み、「うど菜」という名で、山菜として食べられているそうです。

しかし、ハナウドの汁が皮膚に付着し、そのまま日光を浴びると皮膚炎を起すことがあるため注意が必要です。

生薬としては、根に鎮痛作用があり、「牛尾独活（ギユウビドツカツ）」という名で、リウマチ、頭痛などに用いられます。ハナウド属の学名 *Heracleum* はギリシア語の「ヘラクレス（ギリシア神話の英雄）の万能薬 *Panakes herakleion*」にちなみ、最も薬効のある植物として名づけられました。現在、この生薬が用いられることはほとんどなく、属名を考えると少し名前負けしている感じが否めません。

生薬名 牛尾独活（ギユウビドツカツ）

薬用部位 根

薬効 鎮痛作用

用途 リウマチ、頭痛、足や腰の痛み、めまい、歯痛などに用いる

シロバナムシヨケギク

学名： *Pyrethrum cinerariifolium* Trevir. 科名：キク科



暖かい日が続き、気温20℃前後になってくると蚊が活動を始めます。蚊によっては感染症を媒介するので、日頃から虫よけ対策が大切です。虫よけ対策の一つとして蚊取り線香があります。が、除虫菊から生まれたことはご存知でしたか？世界初の蚊取り線香は1890年、日本で誕生しました。きっかけは、発明者の上山英一郎氏がアメリカから得た除虫菊の種子を栽培したことから始まります。戦前には、世界一の除虫菊生産国として、海外に輸出していました。

除虫菊の子房に多く含まれる有効成分「ピレトリン」は、殺虫、忌避効果があり、昆虫などの変温動物の神経に作用し、全身麻痺を引き起こします。人などの恒温動物に対しては、体の大きさの違いと体内に入っても速やかに分解され、体外に排出されるので安全性が高い成分です。

除虫菊には、シロバナムシヨケギクとアカバナムシヨケギク（写真左側）があります。殺虫剤の原料として主に使われるものはシロバナ種で、アカバナ種はピレトリンの含有量が少ないため、日本では観賞用として栽培されています。

生薬名 除虫菊花（ジョチュウギクカ）

薬用部位 頭花

薬効 殺虫効果、忌避効果

用途 殺虫剤原料として使用される